

分野別
将来像

誰ひとり取り残さない，みんなで共に生きるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・行政と地域が一体となり，多様なニーズ，幅広い世代に対応することができるよう，様々な福祉施策を充実させるとともに，多世代がゆるやかに交流できる居場所づくりを推進します。
- ・ヤングケアラーやダブルケアラーといった『ケアラー』のケアに積極的に取り組むなど，多様なニーズに応じたきめ細かな相談・支援体制の構築を図ります。
- ・オンラインによる相談受付やオープンチャット等のデジタル技術も活用するなど，誰もが相談や交流がしやすい環境づくりに努めます。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう，地域包括ケアシステムのより一層の充実を図るとともに，認知症支援や介護予防などの取組を進めます。
- ・様々な当事者の異なるニーズを踏まえ，色々な視点からユニバーサルデザインを検討するなど，誰もが自分らしく暮らすことができる，当事者目線のまちづくりに努めます。

《将来像につながるキーワード》

「多様性」「支え合い」「交流」「寛容」「安心」「地域」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」「誰も取り残されない」「困っている人が生活しやすい」「身近な」「認め合い」「助け合い」「活力や安らぎ」「共生社会の実現」「住民同士の交流や参加の場」「つながり」「共感」「居場所」「交流したくなる居場所」「多様なニーズに合わせた支援の仕組みづくり(ヤングケアラー、ダブルケアラー)」「当事者同士がつながる仕組みづくり(リアルとデジタル両方)」「難病者への配慮(就労支援)」「目に見えない障害への理解」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

① 地域での関わりを自然につくることができ，助け合うことができるまちづくり

- ◆ 様々なコーディネーターを身近な場所に配置するなど，地域社会の多様なニーズの解決に努めます。
- ◆ 多世代がゆるやかに交流できる，居心地の良い居場所づくりを推進します。
- ◆ 子育て世帯から高齢者まで，地域で手軽に支え合い，助け合えるような取組を実施します。
- ◆ 災害時の避難場所において，バリアフリーに配慮するほか，集団生活に困難を抱える，災害時の要配慮者が落ち着いて過ごすことのできる場所を確保するとともに，要配慮者に対する理解の促進を図ります。
- ◆ 福祉サービスを受ける人だけでなく，サービスを提供する人も意義を見出すことができる「地域のプラットフォーム」となる拠点を拡充します。

② 多様なニーズに応じたきめ細かな支援体制が整ったまちづくり

- ◆ ヤングケアラーやダブルケアラーなど，ケアラーが気軽に相談できる環境づくりに努め，ケアラーの負担を和らげるための支援の充実を図ります。
※ヤングケアラー：本来大人が担うと想定される家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(参照：厚生労働省HP)
※ダブルケアラー：親の介護も担う，育児期にある者(世帯)(参照：内閣府HP)
- ◆ デジタル技術を活用するなど，だれもが気軽に相談できる体制を整備し，様々な相談・支援情報を確実に得られることができるように情報発信の強化に努めます。
- ◆ デジタルデバインド解消のための取組と併せて，地域で情報格差を解消できる取組も推進します。

③ 高齢者がいつまでも健康に安心して暮らすことができるまちづくり

- ◆ 地域の連携・協力のもと，高齢者を地域の中で支え，全ての高齢者が安心して自分らしく暮らし続けられる地域づくりを推進します。
- ◆ 高齢者が望む場所で安心して生活できるよう，切れ目なく必要なサービスを提供する地域包括ケアシステムの充実を図ります。
- ◆ 認知症支援を充実させるとともに，住み慣れた地域で安心して生活できるよう理解促進に向けた取組を進めます
- ◆ 介護予防事業を実施するとともに，高齢者のつながりを創出し，より多くの高齢者が，介護を必要とすることなく健康的に日常生活を送ることができる取組を展開します。

③ 誰もが自分らしく暮らすことができる，当事者の視点を重視したまちづくり

- ◆ 難病の方にも配慮した共生社会の充実に向け，「少しでも生きづらさを感じている人が生活しやすいまちづくり」が共通の課題認識となるよう，意識の醸成を図ります。
- ◆ 外国にルーツを持つ方が抱える課題の解決に向け，多言語による対応など，分かりやすい情報提供や気軽に相談できる体制整備に努めます。
- ◆ 歩行が困難な方や，ベビーカーの利用者，視覚障害の方などの異なったニーズを考慮し，ユニバーサルデザインを踏まえた視点から，だれもが安心して移動できるよう，歩道や道路の整備を促進します。

現状と
課題

強み(良いところ，伸ばしたいところ)

- 他自治体に比べて，地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員など，地域福祉に関わる専門職が多い
- 地域社会や公的サービスによる，支援が必要な方への見守り体制が充実している
- 行政が対応しきれない部分を，社協などの関係機関がカバーしている，他

弱み(悪いところ，改善したいところ)

- △ 高齢者への生活支援サービスが他の自治体に比べて不十分
- △ ヤングケアラーへの支援(特に精神面)がない
- △ 障害者への理解を醸成するための取組は不足している
- △ 地域住民同士がつながりを得られる機会が少ない，他

分野別
将来像

市民一人一人が自分に合った「健康づくり」を通して 笑顔になれるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・がん対策の推進や、誰もがスポーツに取り組みやすい環境づくり、さらには、健康施策についての積極的な情報発信を進めることにより、市民一人一人の「健康づくり」への意識の啓発・醸成を促します。
- ・地域、医療機関、企業等との密接な連携体制を築くことにより、市民一人一人にとって、それぞれが抱える健康課題とともに歩むことができる地域社会を目指します。
- ・「心の健康づくり」をはじめとする、現代の多様化する健康課題を解決するため、多様な健康施策に取り組み、市民一人一人にとって、理想の健康づくりを実現できる体制を整えます。

《将来像につながるキーワード》

「健康でない人も笑顔で」「スポーツ」「近隣に病院がある魅力」「地域と繋がる」「社会生活を維持するための機能」「市民が健康づくりに取り組める仕組み」「利用しやすい(場所もお金も)スポーツ施設」「受動喫煙」「心の健康(自殺対策)」「ゲートキーパー」「病とともに歩む」「地域包括ケアシステム」「子供向けイベント」「地域と行政が連携」「病気になる前後も健康づくりの情報にアクセス」「がん条例」「健康づくりへのアクセシビリティが高いHP」「高齢者・外国にルーツを持つ方・ウイズコロナ」「在宅医療 MCS(メディカルケアステーション)のネットワーク」「難病の人や医療的ケア児が自宅で生活」「病気の高齢者も楽しく地域で過ごせる」「メンタルケア」「地域の伴走」「摂食障害、ボディポジティブ」「若者の悩みへのアプローチ」「自殺率が低い地域 “病は市に出せ”」「一次予防(健康づくり)二次予防(健康診断)三次予防(重症化を防ぐ)」「介護状態や病気になっても地域とつながり続けられる」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

<p>①市民一人一人が、「健康づくり」についての意識を育むことができるまちづくり</p>	<p>②市民一人一人が、病気や高齢化など、それぞれの抱える健康課題とともに歩むことができるまちづくり</p>	<p>③市民一人一人が、様々な「健康づくり」を実現できるまちづくり</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆がん対策の推進や、予防接種、健康診断の促進、生活習慣の改善のための取組など、市民の健康状態を維持・確認することができる機会をつくります。 ◆市民の健康の増進や健康寿命の延伸にも結び付くよう、多様な主体と連携し、一人一人のニーズやライフスタイルに応じて、スポーツや運動に取り組むことができる機会・環境の充実を図ります。 ◆市民が、早期に適切な「健康づくり」のための情報にアクセスすることができるよう、アクセシビリティの高いホームページの作成や SNS 等の媒体を活用した積極的な情報発信を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政と地域が密接に連携し、高齢や病気になっても、地域でいきいきと暮らすことができる、「地域の伴走」が得られるまちを目指します。 ◆がん等の重度の病気に罹患した場合でも、医療機関や企業等との連携により、安心して病気と向き合うことができるシステムを構築します。 ◆より一層、一人一人の状況に合わせた在宅医療・介護が実現できるように、医療機関等との連携を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域との連携による自殺対策など、一人一人に寄り添った「心の健康づくり」を推進します。 ◆医療機関や地域の連携・協力のもと、ウイズコロナを意識した感染症対策、受動喫煙防止のための施策等を推進することで、現代の多様化する健康課題の解決に尽力します。 ◆乳幼児、子ども、若者、障害を持つ方、外国にルーツを持つ方、高齢者など、市民一人一人がそれぞれのライフステージや抱える健康課題に合わせて、「健康づくり」を進められるよう、幅広く、切れ目の無い健康支援に取り組みます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ資源(スポーツチームとのパートナーシップ, スタジアムのあるまち) ・近隣に大学病院がある環境 ・地域, 大学, 企業, 医療機関などの多様な主体との連携 ・地域包括ケアシステム ・がん条例の制定 ・受動喫煙防止の取組 ・ちょうふ在宅ネットの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康施策に関する情報が一元化されていないホームページ (健康施策に関する情報が十分に認知されていない。アクセスしにくい。)

分野別
将来像

次代を担う子どもたち一人一人の想いを尊重し、 みんなが安心して自分らしく**成長できる**まち 調布

《将来像に込めたあるべきまちな姿》

- ・障害当事者との交流の拡充や特別支援教育の更なる充実を図るなど、より一層、一人一人の「個」に焦点を当てた教育環境を整えることで、互いに尊重し、認め合い、支え合うことができる環境づくりを進めます。
- ・アレルギー対策については、過去に起きた事故の教訓を生かし、アレルギーを持つ子どもたちに配慮した学校給食の提供や対策マニュアルの見直し、理解を深めるための研修プログラムの充実を図る等、盤石な体制を継続します。
- ・地域に開かれた学校づくりによって、地域と学校との関係性をより密接なものとする中で、「地域に見守られた安全な学校」を目指します。
- ・小学生や中学生から18歳以上の年代も含めた、幅広い若い世代の想いや気持ちを尊重し、その一人一人がまちの「主役」であることを実感し、活躍することができる環境をつくります。

《将来像につながるキーワード》

「子どもの意見や人権を尊重」「意見を言える場」「子どもの頃から行政参加」「次世代の担い手づくり」「互いのよさや違いを認め合う」「安全・安心な学校環境づくり」「子どもが活躍できる場づくり」「心の壁のない教育」「気づき」を得られる交流」「特別支援教育の更なる充実」「事故を契機とした食物アレルギーに対する盤石な「調布モデル」の充実」「セキュリティバランスに考慮した学校づくり」「一人でもいられる場所」「心」の安心・安全」「一人一人に合った教育を提供できる体制」「若い世代がより主体的に地域で活動できる環境整備」「心の壁のない」「地域に開かれた学校」「地域と協働」「違いは豊かさと感じられる学校」「特別支援教育の質の担保・向上」「多様性を学ぶ機会を保障」「ユニバーサルな施設・設備を整備」「若い世代の居場所づくり(交流の場づくり)」「若い世代の主体的な地域参加をうながす(取り組み・環境・場)」「困難を抱えた若者を取りこぼさず支援」「幅広い若い世代」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

<p>①子どもたちが互いに尊重し、認め合い、支え合うことができる心の壁のない環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが自分と他者の違いを自然に受け入れ、多様性について「気づき」を得られる交流機会や教育体制の充実を図ります。 ◆年齢差、能力差、障害等に対する心理的な壁を感じることがない個に応じた教育、特別支援教育の更なる充実を図ります。 ◆より多くの障害当事者の経験を子どもたちに伝えられる場を設け、障害理解の促進に努めます。 	<p>②子どもたちが自分らしく成長できる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたち一人一人を取り巻く環境に目を向け、それぞれの課題を解決するため、個に応じた教育・支援に取り組めます。 ◆食物アレルギーの子どもたちが多くいることを前提とした給食の提供や、アレルギーに関する教育・研修プログラムの充実を図ります。 ◆食材の選定を含めた、安全・安心な学校給食の提供に取り組めます。 	<p>③子どもたちが行きたくなる、魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが登校できない状況でも、自宅で学校教育を受けることができるよう、オンライン教育の充実を図ります。 ◆子どもたちの意見を尊重し、子どもたちが主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れた教育を推進します。 <small>※アクティブ・ラーニング:教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称(参照:文科省用語集)</small> ◆学校教育について、子どもや保護者も一緒に考えることで、みんながわくわくできる学校づくりを進めます。 	<p>④子どもたちが安全に過ごすことができる、地域に開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域とともに学校づくりを進めることで、地域に見守られた安全・安心な学校を目指します。 ◆学校に限らず、児童・生徒が過ごす場所におけるバリアフリーの徹底を図ります。 ◆防犯・防災の観点からの「安全・安心」だけでなく、子どもたち一人一人の心の安心感を充足させられる学校づくりを目指します。 ◆コミュニティ・スクールの導入など、地域との連携により、学校が抱える課題の解決に努めます。 	<p>⑤若い世代が、いきいきと交流し、活躍できる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆同じ悩みを抱える若い世代が、互いに共感することができる環境をつくるとともに、若い世代にとって、いつでも気軽に相談できる体制をつくります。 ◆若い世代が地域で活動したくなる、魅力ある地域づくりを進めるとともに、若い世代が、行政計画や地域の取組に参加しやすい環境を整えます。 ◆若い世代が居心地よく過ごせる場を増やし、若い世代の様々なニーズに対応した施策を進めます。
---	--	--	--	--

現状と
課題

<p>強み(良いところ, 伸ばしたいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生・高校生向けの児童館として青少年ステーション CAPS がある ○全ての学校及びその付近において、放課後子供教室事業(ユーフォー)を実施している ○児童・生徒の安全・安心を確保するための取組, 他 	<p>弱み(悪いところ, 改善したいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> △児童・生徒が多様性を認め合える教育が十分にできていない △児童・生徒数の増加に伴う教室の整備, 一人ひとりと向き合う時間の確保 △学校施設の老朽化が進んでいる △18歳以上の若者に対する支援が弱い, 他
---	--

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。

分野別
将来像

子どもや子育てに対する寛容さに溢れ、 安心して子どもを産み、育てることができるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・市民にとって身近な場所で、子育てに関する相談・支援の機能を拡充し、切れ目ない支援の更なる充実を図ります。
- ・子どもや子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的とした広報や啓発的な取組を通して、地域全体で子育てを行う風土をつくります。
- ・行政だけでなく、地域住民や民間企業、NPO 法人、医療機関等の様々な主体が連携した、子育て支援を実施することで、調布市で子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりを推進します。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちやその家族が、安心して過ごせるよう、相談・支援体制の充実を図ります。

《将来像につながるキーワード》

「困ったとき」「誰もが、いつでも(デジタル関連)」「身近に(各児童館や福祉圏域(8圏域))」「迷わず相談できる機能」「子育て包括支援」「取り残されない」「調布で子どもを産み・育てたい」「子どもを産み・育てやすい」「切れ目のない支援」「様々な主体との連携・協力」「寛容」「相談できる」「産み・育てやすい」「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」「いつでも相談できる支援環境の充実」「子ども・子育てに寛容な地域」「官民連携によるサービス創出」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①安心して子どもを産み、育てることができる、切れ目ない支援環境のあるまちづくり

- ◆様々な主体と密に協力・連携しながら、子ども・子育て施設の整備充実や多様なサービスの提供を推進します。
- ◆各地域の児童館など、市民にとって足を運びやすい身近な場所で、子育てに関する相談・支援機能の拡充を図ります。
- ◆妊娠期から子育て期にわたる、各ライフステージに応じた、一貫した継続的な支援を実施します。
- ◆「子どもを産み、育てやすいまちづくり」を推進し、調布の子育て環境の良さを市内外に積極的に発信します。
- ◆子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的とした広報・啓発活動を推進します。
- ◆メールやLINEなどを活用し、様々なニーズに応じた効果的な情報発信やきめ細かな支援を実施するほか、子育てにおけるSOSの出しやすい地域づくりに取り組みます。

◆子育てへの心身の負担軽減を図り、安心して過ごせるよう、市内のサービスを周知するとともに、利用状況に応じたサービスの拡充に努めます。

②様々な課題を抱えた子どもや家庭に対する、多様な支援を充実させたまちづくり

- ◆発達遅延や障害など、課題を抱えた子どもたちやその家族に対して、引き続き、各種検診・検査の実施や発達センターでの相談事業などにより、支援します。
- ◆ひとり親家庭が必要な支援につながるよう、関係機関との連携・協力体制を強化しながら、相談支援の充実を図り、経済的な支援を実施します。
- ◆生活に窮する子育て家庭へ各種手当等に関する制度周知や相談体制を整えるなど、経済的負担軽減につなげるとともに、子ども食堂等、子どもの居場所づくりを支援するなど、総合的な対策を推進します。
- ◆双子・三つ子などの多胎児を持つ家庭が、安心して子育てできるよう、特有の悩みや楽しみなどを共感できるような交流の場や相談・支援体制の充実を図ります。
- ◆子育て世代包括支援センター(保健センター及び子ども家庭支援センターすこやか)等の機能を生かし、虐待予防や早期発見・早期対応や妊娠・出産・育児への不安の軽減につなげる取組等を推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援センター「すこやか」など、子育てに関して相談ができる場所・団体が多く充実している ○子育てに関する情報の提供源が増えてきた ○ひとり親家庭への支援が充実している, 他 	<ul style="list-style-type: none"> △出産前からの切れ目ない支援が不足している △0~2歳児の保育園への入園が難しい △子育てに関して相談できる場所・団体が多く充実しているが、広報が不十分のために知らない人が多い, 他

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。